町雑誌

千住

SENJI

特大号

保存版

特別頒価 二〇〇円

■特集■

千住宿を遊ぼう！

PART I

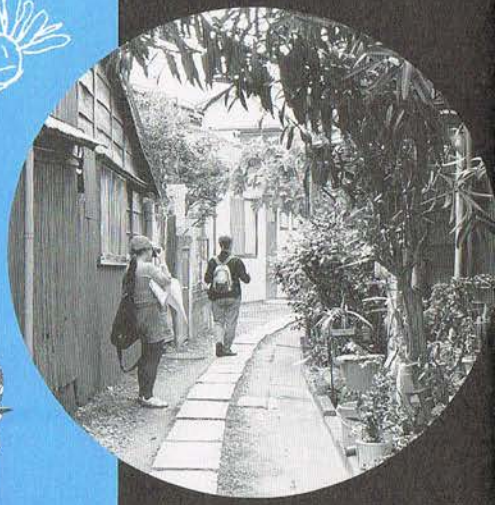
■連載■

千住明治の女伝 4

千住の昔話 4

千住タイムトラベル 見番横町

せんじゅの名前で出ています



VOL.4

MachiZasshi Senju

千住宿あそびの心得五条

一、**早歩きは3文の得なし**
のんびり うろうろ歩きましょう。

一、**タイムマシン持参で行くべし**
過去へトリップする「豊かな想像力」というマシンを忘れないで。エンジンオイルにはこの町雑誌千住をどうぞ。

一、**発見は町雑誌に知らせるがよし**
もし面白いこと発見したら、町雑誌千住にも教えてね！

一、**裏道に宝あり、されど住人に心くばるべし**
路地などを通るときは住んでいる人の邪魔にならないよう気をつけて。

一、**町の生き字引どのに会えたらラッキーなり**
町に詳しい字引のような人が千住にはいっぱい。運良く会えたら、ごろにゃんとお話をうかがってみよう。

■目　次■

■特　集・千住宿を遊ぼうPART1 ―― 1
千住宿じまんいろはがるた ―― 2
千住宿　より道しながら散歩 ―― 6
千住宿で出会った人たち ―― 14
内緒で教える千住宿散歩をぐんと面白くする　ちょっといい話 ―― 16
千住宿と川のはなし ―― 20
千住宿散歩みやげ ―― 24

■新連載　千住人人① ―― 23
■新連載　せんじゅの名前で出ています①～② ―― 5、23
■新連載　千住タイムトラベル①　見番横町 ―― 19

■連　載　千住明治の女伝④　大江さとさん ―― 26
■連　載　千住の昔話④　千住の川の主たち ―― 27
■お願いなど ―― 28
■連　載　千住発見 ―― 裏表紙

千住宿を……遊ぼう

千住宿…そう聞いて何を思い浮かべるだろう。弥次さん、喜多さんみたいな一般市民の旅姿？ 水戸黄門のご一行？ それとも「下にい、下に」のものものしい大名行列？…どれも実際に千住宿を通りすぎた現実だけど、これらは氷山の一角。その裏、そして表にも、過去にも、そして現代にも、意外でわくわくするような、ときにはちょっと悲しいエピソードが、いっぱい詰まった千住宿。少～し勉強もしながら、過去から現代まで千住宿をタイムトリップしてみよう！

江戸には四つの宿場町があった

江戸から地方へ向う街道は5街道あり、5街道の江戸からの出口に宿場町がもうけられていた。千住宿、品川宿、内藤新宿、板橋宿の四宿。街道沿いに旅篭(はたご)や店が並んで賑わった。旅篭の数が一番多く、一番賑わったのは品川宿。人口や家の数が一番多かったのは千住宿。なぜなら千住にはやっちゃば(野菜市場)があり、野菜の江戸への入り口でもあったりなど、宿場の仕事以外で生計を立てる人も多かったのだ。

少々歴史をたどってみると、家康が江戸に幕府を開いたのは1603年(慶長8年)。千住はその以前から宿場町としての形態を整えつつあった。そして3代家光のとき、1625年(寛永2年)、千住は日光道中で最初の宿場と定められた。このときの千住宿は、現在の千住1丁目～5丁目まで。この後、人の往来も増え、1658年(万治元年)、掃部宿(今の千住仲町あたり)と河原町、橋戸町が加わり、さらに1660年(万治3年)、現在の南千住の小塚原町、中村町も組み込まれ、この10町を総称して千住宿と呼ぶようになった。

千住宿からの道は5街道のうち日光道中とその途中から分かれる奥州道中、それから水戸佐倉道、この他にも岩槻道、下妻道、大師道など多くの街道が延びていた。

足立区立郷土博物館に再現されている千住宿の町並み(19世紀初め)

宿場町はつらいよ

「近ごろ火附盗賊改のお役人さまが、毎日いく人も市内を見回り、ご宿泊、お休みになられ、当宿に無関係の囚人まで連れてお泊まりになり…」と実数を数え上げて代官所に被害を訴え出たのは1858年(安政5年)11月のこと。品川宿、板橋宿と連名での告発だった。お役人の特権乱用(?)にしびれを切らした告発だったが、宿場町の方としても生きるか死ぬかの綱渡りが続いていたのだ。

宿場には、常に馬と人を決められた数だけ用意し、公用の旅行者に無料または安い料金で提供しなければならないという義務があった。街道に面した屋敷が、間口の広さに応じてこれを負担した。こういった宿場町の負担に対して幕府は多少の免税などを行ったが焼け石に水。負担は決して軽いとは言えなかった。

特に4宿は江戸から出る初宿、旅人の家に近いわけで宿泊客は多いとはいえない。通りすぎる客ばかりである。宿場町として義務づけられていた「はたご屋」業もこうなると赤字続きで、一時千住宿で93軒をこえたはたごが22軒にまで減少したこともあった。そこで幕府はいよいよ飯盛はたご(飯盛女＝遊女のいるはたご)を許可する運びとなったのもそんな理由からだった。年代ははっきりしないが、1764年(明和元年)、千住宿に150人の飯盛女を認めたことが記録に残る。

今千住宿が面白い！

千住宿は今でも当時と同じ道幅や町割を残し、江戸の建物、老舗の和菓子屋も残り、四宿の中でも特に、想像力さえあれば過去にもタイムトリップできるエキサイティングな町だ。たとえば参勤交代の大名行列など大名たちは、旅篭の中でも格の高い「本陣」と呼ばれる宿に泊まったが現在の千住3丁目、そのうレコードのビルの場所が本陣だったのだ。そのうの前に立ったら侍たちがぞろぞろとやって来る様子を想像してみよう。ほんの何百年か前の現実だ。また旅篭ばかりでなくさまざまな店が賑やかに立ち並び、旅に出ない一般の江戸の人々にとっても遊興の地だった千住。さあ、平成から江戸までどんどん広がる千住宿へ繰り出してみよう！

千住宿じまん いろはがるた

千住宿は実に愉快で豪快で、それにちっとは名の知れたお偉い方々ともゆかりのある地。さ、さ、かるたを取って千住宿をたっぷり遊んでくださいな。

さ かずき重ねて九升一合 ——酒合戦

山東京伝「近世奇跡考」巻之五
地黄坊樽次酒伝より(内閣文庫蔵)

ときは文化12年(1815年)10月21日。江戸の頃の千住に、還暦の祝いに江戸の文人墨客を集めて酒合戦をやった男がいた。男は千住1丁目飛脚宿の人呼んで「中六」さん。最高に飲んだのはこれまた千住の松勘どん。その量、9升1合と記録にある。さらにこの大酒飲みの一覧表には女性の名も多いというから頼もしい。菊屋おすみは2升5合の盃を、天満屋みよ女は1升5合の盃をあけて「酔いたる色なし」とはあっぱれ。その子孫、ひょっとしてあなたの周りにいない?

毎年9月14.15日拝観可

し るはご利益、長八の名品

こて絵とは蔵の壁などに使うしっくいを、こてで盛り上げ彫刻した絵のこと。昔から壁塗りがなりわいの左官屋さんの腕の見せ所だった。そのこて絵の名手、伊豆の長八の貴重な逸品が千住大橋のたもと、橋戸稲荷の本殿の中に現存する。おいなりさんだけあって、雌と雄の一対の狐が浮き彫りされ、何やら神秘的できれい。

せ りの声 商人どもがやっちゃばの跡

往年のやっちゃばの賑わい

やっちゃばこと千住青果市場。日光街道千住宿の南端にあり、地方の産物を江戸へ運ぶ中継地だった。昔は青果だけでなく川魚や米なども扱ったという。毎朝「ヤッチャ、ヤッチャ」と威勢の良いセリの声が響いていた。河原稲荷神社にある千住市場開設記念碑によると、1576年にはすでに市場の原型があったとされる。1720年頃には神田、駒込と並ぶ江戸三大市場の一つとして、幕府御用達の品も扱った。残念ながら昭和16年に中央卸売市場に吸収合併され当時の賑わいはもうないが、現在は橋戸町で足立市場として主に魚を扱う。

る りも茶釜も磨けば光る

暴れん坊将軍でおなじみ八代将軍吉宗が鷹狩りの帰りに立ち寄った茶店の店先に、顔が映るほどピカピカに磨かれた茶釜があった。感心した吉宗が後に俳句をしたためた直筆の短冊を贈った話が江戸中に広まり、将軍様が飲んだ同じ茶釜で茶を一口飲もうと、連日押す押すの大賑わいになったという。その茶店、ぢぢが茶屋は5丁目の先、今は荒川の河川敷となった場所にあった。ぢぢが茶屋の近くは、荒川放水路のできる前は茶釜橋と呼ばれ、千住馬車鉄道の始発駅ともなっていた。

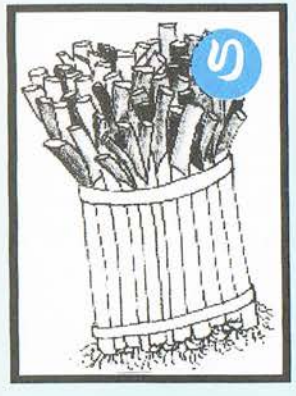
茶釜と短冊は、千住5丁目石原家に家宝として秘蔵されている

と きが横もれば財産となる～江戸の伝馬屋敷 横山家

足立区立郷土博物館2階に紙問屋を営んでいた頃の横山家 内部が一部再現されている

千住宿も北の端に近い千住4丁目に、江戸時代から紙問屋として商ってきた横山家(屋号;松屋)がある。旧日光街道に面し、当時のまま姿を変えない造りの家は、今では江戸の頃の空気を伝える日本の財産だ。しかし当時は将軍の一行が街道を利用するときの人足や馬の経費を、宿場がすべて負担しなければならず、その分担は、間口が8間(約15m)で馬一頭、それ以下は人足一人分。この馬役分担の家を伝馬屋敷と呼び、横山家をはじめ千住には174軒あったそうな。住人には名誉よりも泣きの涙の痛い制度だったといえよう。

り ょう亭の味「千住ねぎ」



千住ねぎは白味が長いうえ太くかたくしまっているのが特徴で、関東のねぎの中でも高級なねぎである。もともと白味が10センチ程度のものに改良を重ねて白味の長いねぎに作り上げたらしい。千住一帯の土は粘土質であったため、大根や人参には適していなかったが、ねぎにはもってこいであった。今では当然ながら、千住と名がついても千住で作っているところはない。

ほ ねつぎといえば千住の名倉

江戸明治大正昭和の建物を残し、今も雰囲気たっぷり

江戸時代から200年以上の歴史を持つ千住5丁目の名倉医院は、往時は全国各地から患者が集まるほど音に聞こえたほねつぎの病院だった。戸板や荷車で運ばれてくる大勢の患者で夜明け前に旧道には列ができたという。何日もかかる重傷の患者は病院の周辺に並ぶ患者専用のはたごに宿泊して入院代わりとしていた。はたごの主人が治療師を兼ねていた。夜な夜な落語家や流しが来てはたごで芸を披露するなど、面白いエピソードも多く、他に類を見ないユニークなシステムだったが、戦後病院法の改正で、特殊なはたご業は禁止され、今では本家の名倉医院だけとなった。

こ の葵の御紋が目に入らぬか

勝専寺(赤門寺)のあおいの紋(上)
慈眼寺のたちあおいの紋(下)

お寺に徳川の紋…というのも実は千住では珍しいことではない。「徳川の菩提寺が浄土宗の寺だということと、徳川家が東照宮の参拝のとき、当寺でお休みになったことから江戸時代に葵の紋をつけるようになりました」(勝専寺)「慈眼寺は江戸時代、参勤交代の時に大名の宿になったらしいんですね。それでこの紋になったようです」(慈眼寺)…いずれも千住宿時代、この地が担っていた役割を感じさせてくれる。

せ ん里の道も千住から

1689年3年27日、奥の細道で有名な俳人、松尾芭蕉は、ここから奥の細道の旅をはじめた。「千じゅというところにて船をあがれば、前途三千里のおもい胸にふさがりて幻のちまたに離別の泪(なみだ)をそそぐ」と書き置き、続いてかの有名な一句「行春や鳥啼(な)き魚の目は泪」と詠んでいる。旅に危険はつきものの時代のことである。芭蕉も江戸を背に千住大橋にたたずんだとき思わずセンチメンタルになったのかもしれない。

千住十題 松尾芭蕉の旅立ち
(伊藤晴雨絵) 神野彦二氏蔵

千住宿じまん いろはがるた

お お橋は七転八起

千住大橋は隅田川に最初に架かった橋だ。意外に思うかもしれないがかの両国橋より60年も早く1594年(文禄3年)、家康が江戸に入ってたったの4年後、伊奈忠次により架けられた。それから長い間、千住大橋を渡らなければ東からは江戸に入れなかった、そういう重要な橋だったのだ。当時、千住大橋は「伽羅よりまさる」と川柳に詠まれるほどの橋材を使われていたようだが、それでも木橋のため、災害のたびに流されて大変だった。しかしさすが転んでもただでは起きない千住大橋、架けかえのたび、残材は熊野神社の社殿に使われ、また最後の木橋の一部は、火鉢や彫刻となって千住の趣味人のお宅に残っている。現在の鉄橋は昭和2年に架けられたもの。

あ あっと驚く静御前

3階が2階に、2階が1階に納められるカラクリをもつ

明治5年に落成された4丁目氷川神社の山車は、高さ7.53メートル、1階がお囃子の舞台、2階が回廊式の舞台、3階には江戸の名匠 鼠屋五兵衛作の、扇を手に踊る静御前の人形が見下ろすといった豪華な江戸型山車だ。昔はこのタイプの山車も見られたが、今では東京中にほとんど残っていない貴重品。足立区立郷土博物館で常設展示中。

た たびは道連れ お殿様も庶民も往き〜日光街道の初宿千住

千住十題 伊達政宗と鉄砲隊
(伊藤晴雨絵) 神野彦二氏蔵

参勤交代制が始まったのは 寛永年間(1624年〜)。もちろん日光街道は主要道路である。しかし、さかのぼる1617年に家康が日光山に埋葬されて東照宮が建立されたときから、将軍をはじめとした幕府の要人たちの日光参りが始まっていた。明治5年の宿駅廃止までなんと200年以上その役割を果たしてきたのである。特に千住は街道の初宿で、エライ人も数知れず通り、庶民も通りで大賑わいだったそう。

が がんそ リサイクル おえんまさまのボロ市

昭和37年当時のボロ市の様子

千住2丁目の赤門寺こと勝専寺はボロ市でも有名だった。和服、洋服、手袋、靴下、毛布、古着やはぎれなど文字通りのボロが中心の店が並んでにぎわった。かつて参勤交代の大名や旅人が江戸入りする千住で正装に着替え、捨てられたそれまでの衣服や足袋を拾い、洗って売ったのがはじまりといわれる。残念ながら昭和50年代を最後になくなったが、リサイクル&フリーマーケットの時代が来たのでぜひまた復活を期待したいものだ。

め めいぶつにらまいものあり 公式東京みやげ

すずめ焼きはすずめの串焼きじゃないよ

千住名物すずめ焼き？…コレ、実は小鮒の背を切り開いて数匹串刺しにしてしょう油をつけて焼いたものである。見た目が古典模様のふくら雀に似ていることからこの愛称がついたらしい。千住大橋付近を昔、千住川と呼んだがそのあたりで捕れる鮒を千住鮒と呼んでこの地の名産だった。風味は琵琶湖の鮒に負けないくらいで、オリンピックをひかえた昭和39年に、東京観光協会から東京土産として推薦された逸品でもある。千住界隈には今も数軒の雀焼き屋があるが、鮒は地方で仕入れている。

「せんじゅ」ブランドの商品を、捜してみれば

せんじゅの名前で でています 1

意外とあるある！これからシリーズでご紹介しますのでごひいきにね。

■久保田の千寿■と■千寿越乃かぎろひ■

「千寿という名はめでたい祝いの気持をこめたものです。久保田の千寿は万寿より前からあった商品で、本醸造ですが一番飲まれているんですよ」(朝日酒造 平沢さん)

久保田は今、大変な人気商品で入手が難しく、値もつり上がりがち。同じ製造元のかぎろひと一緒に、千住の酒屋でお話を聞いた。

久保田の千寿

(取材協力／くらしハウス千住緑町店)

「久保田はぜんぜん儲かりません。でもお客さまに喜んでいただきたいですから」と常連さんの紹介で九州の酒屋さんから仕入れているとか。新潟発九州経由千住行きの千寿とは、涙ぐましい！

(くらしハウスPRICE3700円)

千寿越乃かぎろひ

(取材協力／千住4丁目花栗屋)

「久保田と同じ製造元で、久保田の千寿は本醸造、越乃かぎろひは純米酒で名前の分、久保田は高くなっていますから僕はかぎろひをお勧めします」とは花栗屋ご主人のアドバイスでした。

(花栗屋PRICE2700円)

か 報は寝て待て 千住絵馬

千住の絵馬は千住4丁目に東京でただ一つ残る絵馬の店として8代続く製法と図案を守り続ける。経木に胡粉を塗る千住独特の絵馬だ。今見ても図案は新鮮でおしゃれ。今も伺えば買える。古くから馬を財宝としてきた我が国では、神社に馬を献納する習わしがあった。しかし、納め主は献納した馬に飼育費も添えなければならず、また納められた神社でも飼育の手間がかかるので、やがて略式になり木馬を献納するようになった。しかしさらに略されて平安中期には木馬から絵に描いた馬、すなわち絵馬を献納するようになる。これが絵馬のはじまりである。

千住宿

より道しながらさんぽ

むかーし千住宿として栄えた、旧日光街道は、いまも当時と同じ道幅のまま、新旧同居の魅力あふれるエリア。今回は千住5丁目から江戸へ向って1丁目までを歩いてみました。13ページまで続きます。どこから歩き始めてもOK。北千住駅からの人は、10ページから見てね！

材料にこだわった1本80円の焼きだんご、あんだんごは、ちょっと他にはないふわっと温かな口ざわり。店の奥で七輪で焼く様子が見られる。建物は明治末期のものだが団子屋を開業したのは戦後すぐ。水戸黄門が、近くの松に槍をかけ休んだのが団子名の由来。しかし「松って字を看板に入れるの忘れちゃったんですよ」（ご主人）とほがらかな話。

かどやの槍かけだんご

旧日光街道

千住の絵馬屋

江戸時代から続く東京に唯一軒残る絵馬屋。8代目の吉田北子さんが1点1点手描きで仕上げる。絵柄は10種類程で泥絵の具のひときわ鮮やかな色彩の組み合わせが新鮮。1枚（1000円～）から買えるので興味のある人はぜひ声をかけてみて。

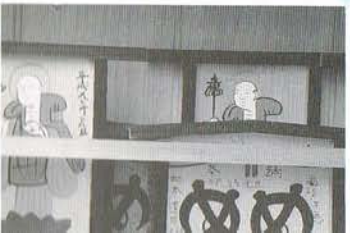
横山家

黒い蔵の家。昔の蔵を住居に利用されているシブ～イ家。

江戸時代の建物が風情たっぷりにそのまま残る。当時は浅草紙（リサイクル紙）の問屋で屋号を「松屋」といった。雨どいに「松」の字が残る。街道より一段低い店構えは、お客さまより下に、の意味だとか。

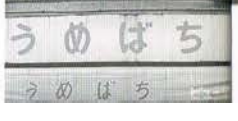
旧水戸街道

4丁目の絵馬屋の絵馬はここでも見られる。



長円寺

4丁目氷川神社



小石でたたくとカンカンといい音がするカンカン地蔵がある。たたきながら願い事をすればよくかなうとかで、たたかれ続け削れたお地蔵様は今は少々ぎょっとさせられる風貌。でもその霊験は衰えず。

安養院

石畳のきれいな路地

緑多いステキな豆腐屋さんと、もと紙屋だった、きれいな和風建築

荒川土手

超オススメ、ヒーリングスポット。空が広くて気持ちいい！

旧下妻道

金町屋

骨つぎの名倉の患者たちが、宿泊して治療した宿屋の1軒「金町屋」。建物や軒灯は当時のまま。

大塚製菓所

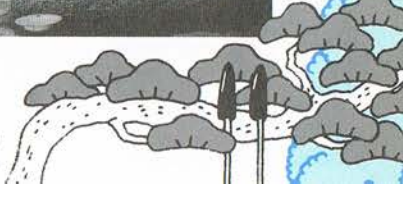
昔ながらの門構えで、ここで甘納豆を作り、販売もしている。豆の味の素朴な、美味しい甘納豆に会える。

骨つぎといえば名倉、といわれた本家本元。江戸、明治、大正、昭和と各時代の建物がしっとりと落ち着いた風情で残り、また手入れの行き届いた庭もある。

名倉医院

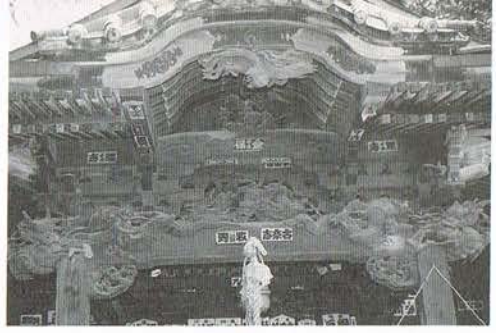
清亮寺

水戸黄門が槍をかけ休んだという槍かけの松があった寺。落ち着いた緑の境内は一休みにマル。



千住宿珈琲物語

千住宿と名のつく喫茶店は、雰囲気よし、珈琲うまし、マスターかっこよしのオススメ休憩スポット。ウッディな店内にジャズがかかり、あくまでも控めで大人の雰囲気。



旅館舞鶴

旧殿が見どころ。扉の中のお社の両脇に、鼻の低いハンサムな小鍛冶と鞍間の天狗の貴重な彫刻が施されている。千住の蔦頭だった金杉大五郎の作。かの日光東照宮にもかかわった蔦の末裔だとか。毎月1日と15日には開帳しているが、お願いすれば普段でも拝観可。

本氷川神社

氷川神社参道

2軒長屋が続いていた参道は、今も面影を残す。昔は神社の前に小川が流れ、小橋を渡って入ったとか。

銭湯のある路地

ラムネのメーカーはいくつかあるが、ここはこのあたりをエリアとする菊水商会。以前はここで瓶詰めもしていて大変賑やかだったらしい。懐かしいラムネのカラ瓶がケースで無造作に置かれている。今はなき角ビンを見つけたらもうけもの。

旅館福水

菊水商会

サンロード

平野屋

煎餅屋さん。店頭で煎餅を焼いている。

石黒製菓

量り売りの懐かしい「石黒のあめ」。毎日あめを煮て、さめる前にはさみや糸で手際よく切っていく。100g 120円程度で、手作りなのに安い！ 素朴なきなこあめが超マルオススメ。珍しいのでお土産にも。

旧日光街道

まつもとや

はたきにイ草の帚、レトロなマッチetc…。懐かしい家庭日用品が揃い、楽しく珍しい見つけものができる店。必見。

本町公園

おでん屋台に会える場所

太栄商店

かわいらしい平屋の店。尋ねてみると自転車部品の卸店とか。木製の床を今も残すわけは、商品が傷つかないようにとの心遣いだそう。昔の商いは理にかなっていたんだなあ。

夕方魚屋さんに会える場所

五福堂

木造の味わい、看板や外壁などに書かれた文字などのバランスが絶妙にナイスな印鑑屋さん。昔、呉服屋だったのが屋号の由来だそう。

ギャラリー紫香楽

小さなかわいい焼きものギャラリー。土の香りのするシブイ焼きものがずらり。販売もしている。自分たちも窯を持つ芸術家夫婦手作りのあたたかな空間。

古くてカッコいい洋装店。上がりかまちがシブイ！

毎日通り飲食店街

戦後マーケットだったこの一角、S33頃から飲み屋ができはじめ小さな盛り場に。（和田美恵子さん談）懐かしげなこじんまりしたお店が多く、何やら心ひかれる。

懐かしい甘い香りのする路地。実は町のドロップ工場がある。

石将庵

路地の中、「石将庵」の額が異彩をはなつ門構、由緒正しそうな庭石…。実は石は、ご主人・大竹菩次さんの趣味。石置場に、あるわあるわ時価ウン万円相当の石がどっさり。思い入れのあるものばかりだけど、交渉次第では売ってもらうことも可。

レンガ4棟続きのもと倉庫。裏から見るとナイス！

大谷石のちょっとカッコいい倉庫

赤門寺こと勝専寺

名物、真赤なでっかい閻魔大王。薄暗い堂内の奥で、太い眉をつりあげ大きな口を開き、胸には日月が輝く。年2回1月と7月の15・16日の縁日「おえんま様の日」だけご開帳される。

坂本石材店

赤門寺の門前、年月を経て重厚感を増した木造家屋がどっしり構える。家を取り巻く巨石に石仏の数々。主に寺関係の石ものを彫るご主人によれば、江戸末期から明治の頃に建てられたものだそう。かの写真家・藤山紀信が、この雰囲気に魅了されて撮った写真が飾られていた。

赤門寺参道

かつてボロ市で賑わった。今もおえんまさまの日には縁日で賑わう。

つるや染物店

明治生まれのご主人のお父さんが始めた店。年月がにじみ出す店構え。

老舗の米屋ササヤ

レトロでステキなお菓子屋さん。震災後すぐの建物で年月を経てしぶみを増している。店内のショーケースが◎。

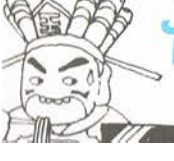
土日だけの中華屋台

美味ししいイモに会える！散歩のおともによし…

本場中国の味のファーストフード。素朴でやさしいおばさんが、カタコトの日本語で店を出す。その場で焼いてくれる餡餅（シャアビン・200円）など、とても美味。

染み抜き、洗い張り、染めを商う懐かしい門構えの店。築は大正時代。この道60年の森昌三さんが相手してくれ、布を選び、染めて一着のきものに仕立て、63000円くらいという値段は決して高くないと見た。

金蔵寺



本尊は俗名・そばえんまさま。というのも実はこのえんまさま、そば好きのあまり浪人に化けて夜な夜な千住宿を徘徊したという逸話もある、ちょっとおちゃめなえんま様なのだ。一方江戸時代、街道から奥まった雑木林の中にあった金蔵寺は、当時千住宿の遊女たちの投げ込み寺として、親元を離れ孤独に死んでいった遊女たちを厚く供養していた。実はとても慈悲深いえんま様でもあったのだ。今も入口脇に供養塔が残る。

昨年、東京都都市景観コンテストで優秀賞を受賞した、おしゃれな洋館の眼医者さん。外観を守るため、アーケードもここだけ切れている。

大橋眼科

高松商店のサッポロポテト自販機。少し前の輸入品で珍しいものだそう。100円でコップいっぱいのサッポロポテトを片手に散歩しよう。

駅前商店街きたろーど1010
1010…？いちまる いちまる…千十…せんじゅう、せんじゅ!!!

通称見番横町

昔、見番（芸妓の元締）があった。

手作りケーキの喫茶店セピア

大名他、エライお方が泊まられる宿が本陣。千住宿では、今のそのうレコードのあたりにあった。

TSUTAYA

本陣あと

北千住駅へ

旧日光街道

カメラを向けたくなるてんぷら屋と甘味屋さん

明治天皇が3度こられた

中田屋あと

千住一の繁栄をうたわれた食亮はたごだった中田屋の建物は、数奇をこらした美しいものだったとか。今のお菓子のシュクルからハウスポートのあたり。

有名な激安子供服店白亜。路地にはママの買物を待つ、パパ軍団が…。

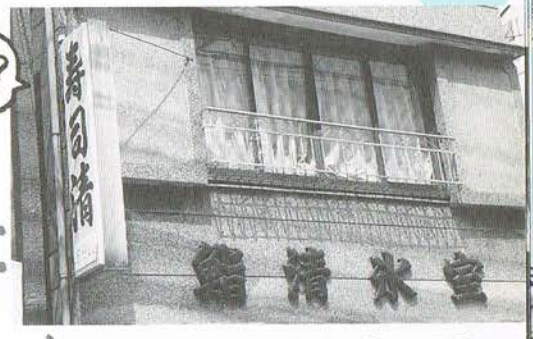
TAMAO

おとーさんがんばってー♡

千住名物すずめ焼きで有名な鮒秋

昭和30年代生まれのレトロなペコちゃんあり。和菓子&レストランというこの不思議な店のショーケースの料理の間にいる。ゆずってほしいと言われることも少なくない、今では貴重な一品。昭和13年から営業、洋食屋のはしりだった。その名残りかメニューもちょっと変わっていて楽しい。

ありゃ?



ニューあわや

鮨清氷室

鮨に氷とはこれいかに?と尋ねてみると戦前、寿司屋だった時の屋号をそのまま使っているとのこと。今は氷と燃料を扱う。夕方には氷にやさしいヒノキの床で大きな氷を切る珍しい光景に出会えるかも。

旧日光街道

むさしや本店

寄せ豆腐(180円)が評判で客のとぎれない店。しかしこの味ができるまでには失敗も繰り返し、夫婦ゲンカも数しれぬとか。今では美人揃いの3人の娘さんたちも手伝い、店は明るい。刺身ゆばなど東京では珍しいメニューも各種手作り。

トポス

今の都税事務所の地に森鴎外のお父さんが橋井堂医院を開いた。鴎外もここで4年暮した。

松井扇子

路地で見つけた「松井扇子」。紙を折る、切る、骨を入れる、と扇子の仕上げをする職人の仕事場だ。扇子を扱うのは東京ではわずか数件。「松井扇子」の特徴は先端に金箔が貼ってあること。手間のかかる豪華な仕上げになっている。伺えば買うことも可。3,000円〜

キュート

喫茶蔵

昭和初期の質屋の蔵をそのまま喫茶店にした、粋な喫茶店。内部の扉や壁も当時のままで、重厚な作りが美しい。ナイスひとやすみスポット。

2つの寺が背中合わせに建つ珍しい立地。慈眼寺の境内には厳棚が4つもあり緑多く涼しげ。西寺にある沢山の無縁仏の石像は1つ1つ顔が異なり何百年の時を経てさらに表情豊か。

不動院と慈眼寺

当時の千住小橋

今は空き地になっているあたりが、江戸時代、千住宿を通る諸大名のための人や馬、宿の手配などをしていた場所。毎日、人と馬でごったがえしていた。

問屋場あと

千住小橋あと

昭和5年までここに千住堀と呼ばれる水路が通っていて、千住小橋がかかっていた。小さな橋だったが千住本宿に入るにはまず千住小橋を渡ったのだ。

馬寄場あと

今のカンダヤ周辺から千寿小学校にかけては馬がつけられていた。

酒合戦のあった飛脚宿

問屋場のすじむかいらしいので今のモスバーガーのあたりか。

2軒長屋のある路地

なぜか小学校名だけ「せんじゅ」の「じゅ」が「住」でなく「寿」。

千寿小学校

千住宿さんぽ、より道しながら楽しんでもらえましたか?町雑誌千住VOL2.銭湯特集号、VOL3.食べ処飲み処特集号もあわせて見ながら散歩していただくと、もっと楽しめること、うけあいです!

千住宿で出会った人たち

東へ向う唯一の街道筋だった日光道中千住宿には、さまざまな人たちが暮し、滞在し、通りすぎた。千住から奥の細道へ旅立った芭蕉、何年かを千住に暮した森鴎外らの他にも、今回の取材の中でこんなステキな人たちに会いました。

巣兆筆「三めぐりの」句自画賛より　江東区芭蕉記念館蔵
※自画賛とは自分で描いた絵に賛（詩など）をつけること
三めぐりの鳥居とそだつ杉菜かな

江戸俳諧三大家のひとり 関屋のいい男

建部巣兆

千住と言えば古今を通じ俳句のさかんな地であったそうな。その地盤を作ったのがこの巣兆。1760年(宝暦10年)頃の生まれで、江戸近郊の名所として多くの絵の題材にもなった千住の関屋に住んだ。生涯一人身だったという巣兆は、知人が一升瓶片手に「巣兆いるか」と訪れれば「おう」と答えて共に飲み、興がのればいつもさっと筆をとったという。些細なことにこだわらず、お金があれば惜しむことなく散財し、洒脱でどこかロマンティストないい男だったらしい。

竜馬の恋人。「鬼小町」と呼ばれた

千葉さな子

「剣がたち、美人で、琴もよくし絵も描く」と坂本竜馬が姉に紹介したという千葉さな子。竜馬が師と仰いだ千葉定吉（千葉周作の弟）の娘で北辰一刀流免許皆伝の腕前だったという。竜馬24才、さな子21才のとき、2人は婚約した。添い遂げることはなかったが、さな子は生涯他に嫁がず、その墓には坂本竜馬室と刻まれている。その心熱き女性さな子の暮らしたのが千住仲町。千葉家には剣の他に家伝の灸があり、さな子もここで灸点をおろしていた。灸は代々受け継がれ、今も「創業嘉永元年 千住の灸 千葉灸治院」の看板がかかる。

この紋どころが目に入らぬか

水戸黄門

現代の千住に「槍かけ」と名のつく菓子がいくつかある。いずれもなかなかうまい千住名物だが、これはかの「槍かけの松」に由来するもの。千住5丁目から道分かれして水戸へ向う水戸街道、ここには当然水戸家の往来があった。その街道脇にある清亮寺の門前に、たいそう立派な枝ぶりの松があり、ここに黄門さまが槍をかけて休んだという。槍かけの松はもうないが、緑多い境内を、黄門さまの踏み締めた地と思い描き空想を巡らせながら散策すれば、また楽し。

千住十題 徳川光国と槍掛けの松（伊藤晴雨絵） 神野彦二氏蔵

女性美を追及した最後の浮世絵師

伊藤晴雨

晩年の伊藤晴雨／「美人乱舞」（弓立社）より

江戸人らしさを失わぬまま、明治15年からの時代を生きた風俗画家晴雨。その父が大正8年から千住4丁目に居を構えたため、晴雨は千住と縁のある人となった。千住老舗の飲み処大はしには晴雨の描いた「千住十題」が残されている。晴雨の実の弟である伊藤寿雄さん(84才)と奥さまが現在千住緑町にお住まいだ。「小学生のとき、オタバコボンに結った前の席の女の子のうなじの汗に濡れた後れ毛が美しいと思ったと言ってました」というので早熟な少年かと思えば、又「冗談ひとつ言わない、真面目でやさしいお兄さんで」とのお話も。一方、スケッチブック片手にふらりと旅に出てはいつ帰ってくるかわからない「今のNHKのあぐりの夫のエイスケみたいなもんですよ」と晴雨の魅力を懐かしそうに話してくださった。

お顔に魅力がにじむ五福堂主人

渡辺春園さん（73才）

「大きな舞台をひとりで舞ってるようなものですな」…。？…。

書とは何ぞやの質問になにやら空をつかむような、しかし何となくわかるような気もする哲学的お答え。お話を聞くとどこまでも無限に広がる春園ワールド。てん刻家石井雙石氏に学び、書とてん刻を業とする。以前呉服屋だったからと名づけた五福堂の名よし、木の看板を掲げるお店のキュートな外観よし、あるじの腕前よし。

入社1年目の千住大好き店長

長谷川温子さん（23才）

しっかりしているのでベテランかと思いきや入社1年目。PHSなどを扱うHIT SHOP 北千住店で店長を務める。さっぱりとして自然体な彼女に話を聞いていると、いつのまにかPHSを申し込んでしまったという人も多数。決して無理強いしないところが安心できる、現代のGOODあきんどかも。ココで働いての町の印象は？ の質問には、「千住の人はすごく親切でびっくり」と目を丸くした。

ガーナから千住にやってきた

スティーブさんとエセルちゃん

取材の日に出会った親子。スティーブさんは日本に来て6年め。エセルちゃんのママは日本人。「今日は仕事なので僕が連れてきました」と、やっぱり今どきの若いパパしてました。住まいは江北だが、日曜日の買物は千住、特に白亜にはよく行く。今日も千住はインターナショナルタウンだね。

千寿小の生徒163人の名前を知るキクヤモータース主人

菊島新吾さん(60才)

「人の子を叱ったら『うちの子に何を言う』と怒鳴られる時代に、ここ千住だけはそうはしたくないからね」と、子供たちの名を覚え顔を見れば威勢よく声をかける。元気があふれ、とても60には見えない！「下町っ子の粋なやせがまん」を語らせたら止まらない。本人も千寿小学校の卒業生で「結局は子供が好き、人が好きなんですよ」と楽しそうに、毎日のように青少年活動に出かけていく。

ちょっといい話

内緒で教える千住宿散歩をぐんと面白くする

千住のお寺で会えるキュートな面々

千住4丁目長円寺の庚申塔

日本版ブレーメンの音楽隊?

3匹の猿の上にひしゃげた鬼、その上に手のいっぱいある何やら恐ろしげなお方…? 背中の上に上にと乗っかって悪者を撃退したあのブレーメンの音楽隊がここにも? と思いきや実はこれ、室町時代から続く庚申信仰の塔。千住のあちこちの寺で見られる。人の体の中にいる虫が天に昇ってその人の罪、過ちを告げるという庚申の日、村人が集まって寝ずに祈る行事が行われ、塔を建てた。信仰でありつつ宴会の日でもあったようで、今も昔も人の考えることは変わらぬようです。

千住4丁目長円寺の六地蔵さま

死後も救ってくれる6地蔵さま

ずらりと並ぶ6体のお地蔵さまは千住の多くの寺にある。仏教では生命は、人、畜生、地獄、修羅、餓鬼、天上の6つの世界を輪廻し簡単には逃れられないとされるが、この6つの世界のどこにいても救われるよう願いがこめられている。

歯痛かはたまたお昼寝中か…?

右手のひらを頬にあて、右膝を立てたやさしいお顔の石像が千住のそこにもここにも。子供たちは歯痛の観音さまなんて言ってるらしいが、この方の本名は如意輪観音。意訳すれば如意は「意のままに財宝を出す」、輪は「この世の迷いを破る」といった意味あいの、ありがた〜い菩薩さまなのだ。右手を頬にあてる姿勢は思唯（しゆい）相といい、苦しむ人々のことを考えている姿。虫歯じゃないよ。

千住1丁目
慈眼寺の如意輪観音さま

馬の顔を頭にのっけた観音さま

江戸の頃、宿場町だった千住には多くの馬がいた。今の千寿小学校のすぐ近くにあった馬つなぎ場にはいつも50頭もいたとか。そんなわけで馬たちの安全と供養のために建てられたのがこの馬頭観音さま。千住にいくつかあるが、ひとつは勝専寺(赤門寺)に見られる。当時寺のまわりには堀があり、徳川の家光将軍がここで馬の足もとを洗ったとか。

旅館に泊まろう!

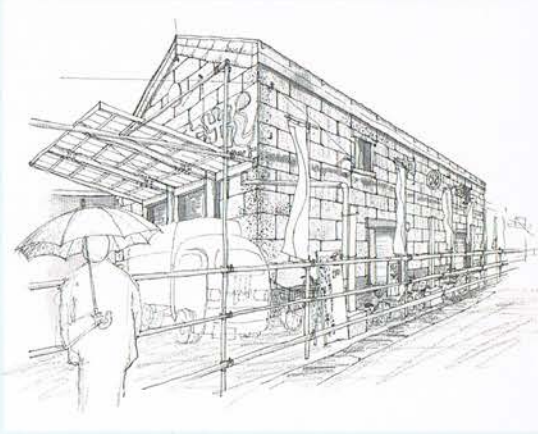
さすがもと宿場町。千住の旧道近辺には現在も泊まれる旅館が何軒かある。ビジネスのお客さまがほとんどとのことだが、しっとりと落ち着いた静かな和風のたたずまいで、とても清潔、しかも安い! 食べ処は近所にたくさんあるので、千住散歩は一泊でどうぞ。

福水旅館

昭和23年の建物。本氷川神社の参道にあって静かで落ち着ける。素泊り1人3800円(千住3-52、3881-4001)

千住は現役蔵の町!

蔵を数えて歩いてみたら、千住の旧道周辺だけでなんと48軒の蔵と思われる建物を発見! 今となっては作れる職人もいなければ、作るには膨大なお金がかかる「蔵」という日本古来の建築物。江戸時代から昭和初期に作られた貴重で美しいものばかりだ。しかも土蔵もあれば煉瓦の蔵、大谷石の蔵、また3階建ての蔵とバラエティに富んでいるし、使われ方も倉庫だったり住居だったり喫茶店だったりギャラリーだったりとさまざま。こんなにあるのに目にとまらなかったのは、蔵ならではの建てられ方のせいで、街道に面したお店の奥の母屋のそのまた奥に立地するから。都内に、これだけ日本の財産が集中しているエリアはちょっとないのでは? **千住・町・元気・探険隊では蔵の調査を続け、次号から紹介していく予定です。**



北千住駅西口交番の裏手の大谷石の蔵。隣に4棟続きの煉瓦の蔵もある

駐車場の塀に残る煉瓦。支え柱の部分など、煉瓦がきれいに積まれていて興味深い

煉瓦がいっぱい

キョロキョロと見回しながら千住を歩けば、ひょんなところでたびたび煉瓦に出会う。蔵もしかり、塀の一部や高架下etc…。実は、明治から大正にかけて洋風の建物が作られ始めた頃、荒川（現隅田川）周辺など足立区には多くの煉瓦工場があったのだ。東京駅にも足立の煉瓦が多く使われた。そんなわけで足立の中心地だった地元千住地域にも煉瓦が多く使われ、今も残るというわけだ。ぜひさがしてみて。

舞鶴旅館

昭和24年の建物。40年に一部増築。創業者(現在の女将の父君)が建築家だったせいで建物の細部にこだわりが見られ、一部屋一部屋興味深い。素泊り1人4000円と4500円(千住3-18、3881-4835)

千住タイムトラベル ①

この連載は、千住の町を西へ東へ歩くだけでなく、少〜し過去へも歩いていただくための道しるべです。

芸者さんの歩いた横町

現在の見番横町。サンロード側から見たところ。

見番横町。戦前の佳き時代に千住で生れ育った方でないとわからない名前だろう。北千住駅西口をまっすぐに西へ向い、旧日光街道(サンロード)を右折し、現在のそのうレコード店の手前を左折した、幅約一間長さ200m足らずの狭い道が見番横町だ。

両側に芸妓屋さんが軒を並べ、人力車屋さん、髪結い屋さん、小料理屋さん、そば屋さん、清元のお師匠さん等の家も並び、盛んなときは旧道に負けず賑やかな横町だった。昼下がりなど、粋な三味線の音が聞えたものだ。夕方になると日本髪を結った芸者さんが人力車に乗って出向く姿は懐かしい。現代では、芝居や映画でしか見られない風景。町の様相も半年一昔のスピードで変わり、当時の華やかな横町を知る人も少なくなり、昔の風景と人情が時代と共に消えていくのが淋しい。

(当時の写真と文)
郷土写真家 石坂満氏

昭和37年の見番横町。見番はもうないが、駅へ続く人通りの多い横町だった。

内緒で教える ちょっといい話

千住宿散歩をぐんと面白くする

歩くあきんどに会える町

ササヤさんの前にも、土日だけ中華屋台がやってくる。

江戸の頃から、商いで忙しく買い物にも行けないうちの多かった千住には、御用聞きと物売りがしきりにやってきた。「豆屋さんがよく惣菜売りに来たもんだ。それから豆腐。ラッパ吹きながら背負って来た。納豆売り、エンドウ豆、飴細工…」大正期の千住を知る米屋のササヤご主人(85才)の話は続く続く。魚屋さんも御用聞きに来たとか。また小さい頃、三味線を持って歩く鳥追い(流しの元祖)の後をよくついて歩いたという。賑やかな街道の様子が目に浮かぶ。今でも歩くあきんどたちの多い千住の旧道では、休日だけやってくる点心の出店、おでん屋台などに会えるだろう。

町を愛した粋な千住の娼妓たち

「足立区で一番古い千寿小学校の、明治の頃の寄付者名簿には女性の名前がずらりと並ぶんです」千寿小学校の川上校長先生が教えてくださった。

宿場町だった千住には、他の宿場町と同じく飯盛 (めしもり) はたごが多くあり飯盛女 (めしもりおんな)ー遊女ーもたくさん暮していた。明治になり「飯盛はたご」は「貸座敷 (かしざしき)」と名を変えたが実質は大きく変わらず。そして1878年(明治11年)、千寿小学校新築移転のとき、千住の娼妓(遊女)239名と芸妓14名の連名で寄付がなされたことが記録に残っている。美しい女性の多い宿場町の華やかさの反面、自分の借金も返さねばならぬつらい身で地元の学校に寄付をする、その心意気が千住なのだ。校長先生のお話はちょっと胸に染みた。

千住宿は路地の町

千住5丁目から千住橋戸町まで旧日光街道に面する道の数を数えてみたらなんと、115本あった。すぐ行き止まる短い路地を入れれば一体いくつの路地があることだろう。この8割以上が路地(主に私道)と横丁(公道)という、とにかくすごい路地の町、しかも現役の生活路地なのだ。旧日光街道の東西に平行して走る道があって(昔小川だった)この道と旧道を結ぶ路地群は、時に行き止まり、時に左右に折れ曲がり、緑の手入れ行き届いた路地もあれば、知る人ぞ知る小さなお店がひっそりたたずむ路地もあり、合間にお地蔵さま(路地尊)があり町を守る。探険心くすぐられる路地空間がいっぱいだけど、住んでいる人たちの迷惑にならないよう、歩いてね。

現代の若手の髪結のひとり吉田潤さん。旧道沿いにお兄さんとEGOというオシャレな店を出す。2人とも店の他にヘアショーや雑誌のモデルのヘアメイクで活躍中。

髪結い床39軒とはこれいかに?

この数字は江戸の頃1827年(文政10年)の千住宿の調査。この狭い千住宿に、この他に髪結い職人が32名いたというからますますすごい。これはボロ市が盛んだった理由と遠からず、江戸に入る旅人が身だしなみを整えたというのがひとつの要因。旅人は千住を通って男を上げ、女を磨いたわけだ。

川の話と千住宿

東京一と自画自賛！超オススメ千住の花火

北千住駅から15分、荒川土手に寝ころがって見る花火ははっきり言って相当な迫力。ドンとでっかく真上に上がり、空がキラキラ降ってくるよう。とにかく千住の荒川は空が広い。

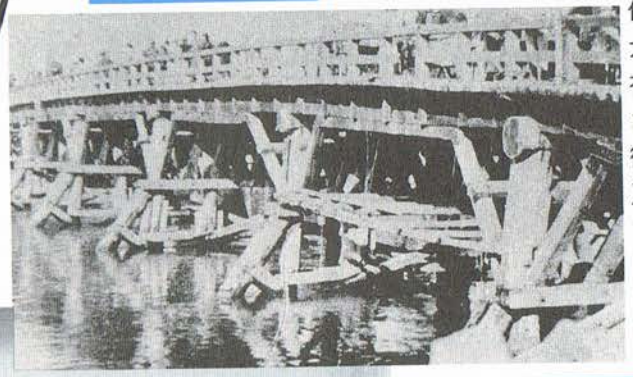
大正13年(1924年)に始まった千住の花火は戦争などで中断されながらもまた復活、年々人気を高めている。「以前は土手にマスができたのよ。ずら～っと相撲のマスみたいにね」(柳町在住女性談)　当時も良し、今もすばらし。

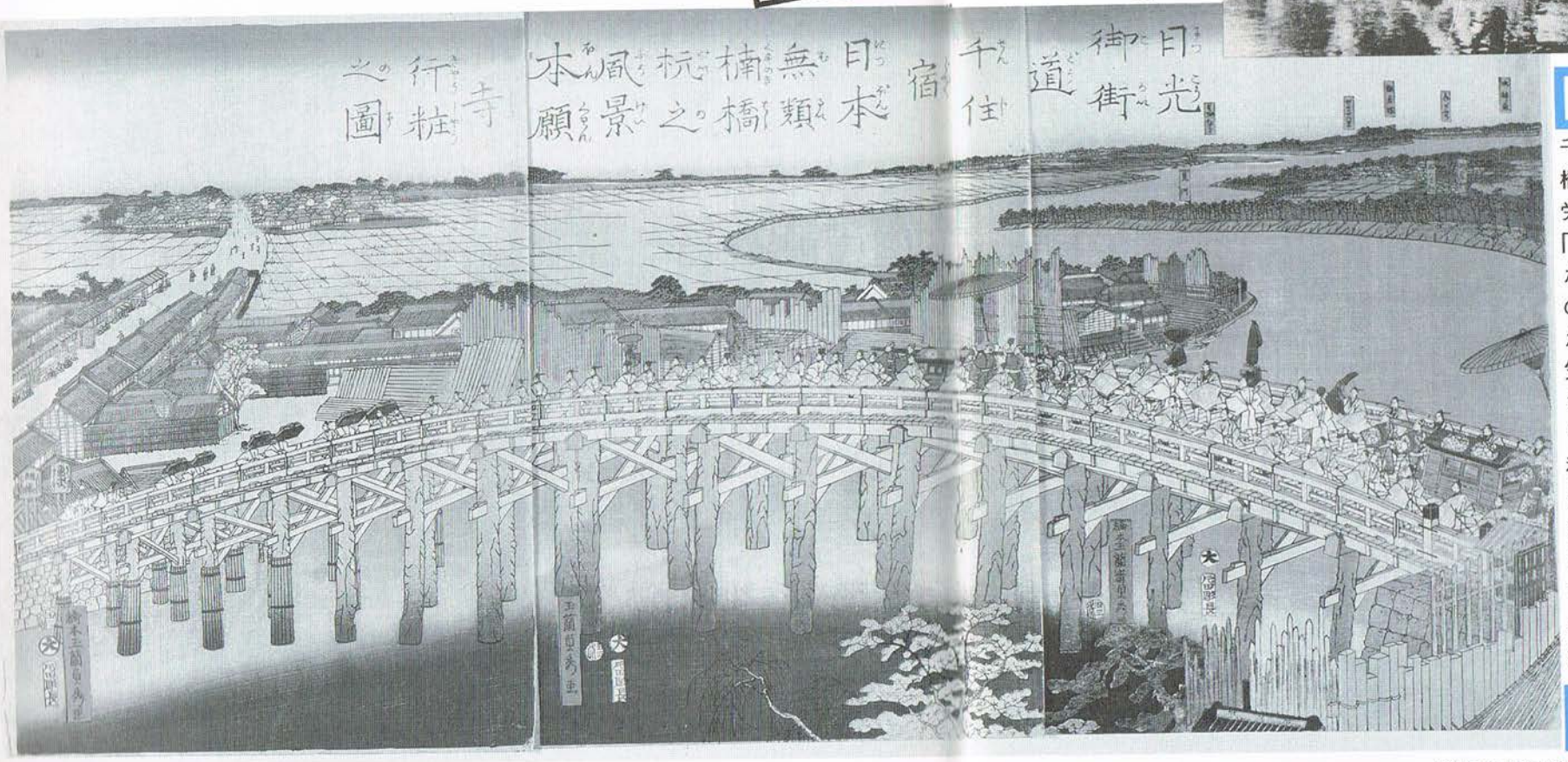
例年、7月25日前後の木曜日 (雨天荒天翌日) に開催とのこと。

問合せ/足立区観光協会3880-5111(代)

川の向こうの宿場町

江戸には4宿あったが、千住宿といえば千住大橋が江戸庶民のイメージだった。錦絵などでも、他の3宿は街並が多く描かれるが、千住宿では　千住大橋が荒川(現在の隅田川)をまたぐ風景が象徴とされた。江戸から川を越えて作られた水際(ウオーターフロント)の宿場町だったわけだ。





千住大橋よもやま話

千住大橋は、大正時代は二つの太鼓橋になって、荷車が渡るのに大変苦労した。橋のたもとでたむろする「たちんぼ」が一押し1銭で力を貸したが、かけ声ばかりで力を出さないので、大勢雇わなければならなかったとか。当時は橋の下をポンポン蒸気船が往来していた。蒸気船は浅草まで1時間もかかるのんびりした乗り物だったが、運賃が安かったので利用客は多く、また、花見の季節になると臨時運行を出し川下りを楽しむ客を運んだのである。昭和2年に鉄橋になると市電も千住4丁目まで延長されるが、当時千住は東京市外といわれ、大橋を渡るだけで特別料金3銭が加算されたという。

大荒れしていた荒川

今、千住名物にもなっている土手の広い荒川は、江戸時代にはなかった川だ。江戸、明治とたびたび氾濫を起こし、近隣の住民を苦しめた隅田川(以前はこれを荒川と呼んでいたから水流を分けるために作られた人口の川。明治43年の大水の後、いよいよ対策が必要と下流部にもう一本放水路(現在の荒川)を作る工事が始まり、大正年間をかけての大工事は大正13年(1924年)にほぼ終了した。

大橋の橋材で作ったおかめ

くず餅の老舗粉川本店(千住橋戸町40)に飾られたおかめ。昭和3年と裏面に刻まれている。最後の木造の大橋のおきみやげだ。

当時重要な橋だった千住大橋は、朽ちないよう強くてよい木を使って作られていたという。かけ替えの時に古い橋材で作られた品々が、今も千住の家々に残る。長く江戸の町の重要な交通を支えた縁起物なので、機会があればお目にかかりたい。

千住宿と川の話

千住のいまどき の舟遊び

川の遊びはいろいろあれど、元祖で粋で今いちばん旬な遊びといえば舟の遊び。さあ、千住から隅田川へ乗り出そう!

屋形船

「昔の屋形船は5-6人乗りで、くぐって入るような小さな舟だったんです。柳橋あたりで旦那衆が遊び、興がのれば『屋形船を呼んどくれ』ってことになって呼ばれていくんですね。ポンポンと鳴るのんびりしたエンジンでね。芸者衆がテテトンテシャンと三味線を鳴らし、それに合せて旦那が長唄や小唄を歌う…」粋な昔の舟遊びを語る濱田屋のご主人は3代目で12-3才のときから舟に乗ってきた隅田川の主のような人。現在、濱田屋の船は大きくなったが客に喜んでもらうための思い入れは深い。乗船は柳原の土手、料金は1人10000円(3時間、酒飲み放題)、人数は相談に応じるが30人くらいから。●濱田屋/3881-2314

つり船

この人が通れば後は何も残らない、東京湾の鬼と呼ばれる豊嶋船長ひきいるつり船で有名な入船が千住大橋のたもとから月火を除く毎日、つり船を出す。夜の出船もある。メバル平日10時出船で9000円(エサ、氷付)他、詳しくは問合せて。屋形船もある。●入船3806-4444

水上バス

千住を通る水上バス(東京水辺ライン)は京成関屋駅にほど近い隅田川岸から出ている。隅田川と荒川をぐるりと周遊する見どころいっぱいの大回りコースは5時間強の船旅で2000円(4~10月は千住発12時40分、金土日祝のみ)。この他にも小回りコースなどがあるが、たまには両国まで船で(約20分500円)、なんてのはいかが。本数は多くはないので問い合せてから出かけて。●東京都公園協会/5608-8869

千住人人

千住おかめの会

千住柳町に、女性ばかり36人(97年5月現在)を集めて練習に励んでいる神輿の会があると聞いた。しかもその年齢層10代から60代までとバラエティに富んでいてユニーク。一体どんな会? と訪ねてみた。

「柳町の神輿は手作りで、都内でもトップクラスと言われるほど重いんです。それが町の自慢だったのに、最近かつぎ手が減って、去年はとうとう進路変更をせざるを得なかった。私たちで何とかできないかと思って声をかけたのが始まりです」(丸山順子さん)

心意気に江戸っ子魂を揺さぶられるものがある。ましてや「おかめ」という会名良し、ちょっと他にない粋なもえぎ色の絵入り半天がまた大好評で、手を挙げる人続出。あれよあれよというまに36名になった。年齢、住所、経験すべて不問、女性でありさえすれば大歓迎、というオープンな姿勢も心安く、興味はあったけど誰に頼めばよいのかわからず参加し損ねていた女性たちを集めた。女性ばかりで年齢もバラバラなのに、メンバーが皆元気でさっぱりしていて楽しそうなのが印象的。

9月の千住の祭に向け、月2回、第1、3月曜の7時半から経験者の指導のもと柳町会館で練習している。興味のある人は、川田さん(3881-7236)または丸山さん(3888-3005)へ問い合せて。

-女性のイキのいいのが千住-

この日は10数名が練習に集まった。
半天を着るのは初めてで、少々緊張気味(?)。

せんじゅの名前ででています 2

■千住宿とうふ■
(千住1丁目むさしや)

その名もズバリ千住宿豆腐。無農薬大豆とニガリで作ったむさしや主人のこだわりの豆腐。まろやかで豆腐らしい味がする人気商品。旭町と大川町に支店があって、そちらでも買える。(140円)

住んでみたい千住の建物①

本氷川神社参道の2階家

この連載では、貸家、貸室として出されている魅力的な建物をご紹介していきます。ただし、不動産は動くものですから、いつ借り手が決まるかわかりませんので、ご了承ください。

天井が高い。廊下がたくさんある。風通しがよい。それが建物の第一印象。新しい建築物にはない魅力だ。昭和初期の築(推定)で、産婆をしていたおばあちゃんが大切に住んできた家だという。

家を探すと、新築となるだけで家賃が急に高くなる。新築という考えを捨てて、ステキなアンティークを探す感覚で家を探すと、案外安くて大きい物件が探せる。ここもそんなひとつ。窓枠の細かい装飾などもきれいに残り貴重だ。しかも一番心配な水まわりはリフォームしたて。この家は手入れのこまめな人に借りてもらえたら幸せだろう。

●1階;8畳4畳半とDK、風呂、トイレ/2階;7畳半、6畳とベランダ2カ所、トイレ/車庫付 ●北千住駅から徒歩数分

この欄でご紹介できる面白い建物をご存じの方は編集部までご連絡ください。

ちょっとキッチュでベリーナイスな 千住宿散歩みやげ

千住宿を散歩するなら、記念に千住らし〜いおみやげも、見つけてみない？ 他ではあんまり見たことない、こんなもの、発見したよ。お友達にもひとつ買ってあげてね。

安くて美味しい大塚の甘納豆（210円）

懐かしい日本建築の店構え、毎日早朝から、この店の奥で作られている甘納豆は50年の歴史を持つ。千住産の名品のひとつ。（発見ポイント；大塚製菓所/千住5-23-3、3881-1847、6時〜18時、日休）

カラフル＆ラブリー日本のはたき（200円）

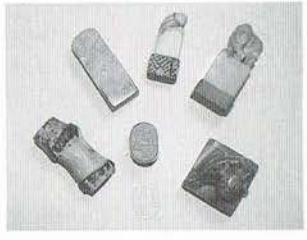
様々に昔懐かしい、安くていいものが見つかるまつもとやで、清く正しく美しい元祖余り布利用の原色はたきを発見。ほこりを払うのがもったいない！（発見ポイント；まつもとや/千住4-20-2、3881-2153、10時〜21時頃、火休）

かどやの槍かけだんご

（１本80円）
いつも作り立てが食べられる人気のだんご。お店の雰囲気もとってもGOOD！（発見ポイント；かどや/千住5-5-10、3888-0682、9時頃〜５時頃、不定休）

小さくて美しいものをめでよう！五福堂の雅印

（25000円位〜材料費込）



五福堂主人が海外や古道具屋、はたまた山林の中から探し出し、手塩にかけた竹や石を材料に彫り上げる雅印（絵や書などに押す印）。あなたも1本いかが。（発見ポイント；五福堂/千住4-23-1、3881-2960、10時〜19時半、日休）

缶もかわいいスグレモノ強力八ツ目鰻キモの油

（100球1050円〜缶サイズ各種有）

缶のあまりのかわいさに、聞いてみれば、３粒で目によし、疲れによし、お酒の前に飲んでよし、というスグレモノだそう。（発見ポイント；仁生堂薬局/千住1-19-8、3881-2273、10時〜19時、休日は18時迄、日休）

おあそびだけど正統派いれずみシール（20円）

本物のいれずみは何十万、何百万かかるそうだけど、一見本物、実はシールのこのいれずみ、なんとたったの20円なのだ。絵柄は何やらダンディ＆キッチュな正統派。（発見ポイント；ホリディショップイイジマ/千住4-24-1、3881-2101、12時〜18時、月休）

超カワイイちびフードけしごむ各種

（50〜100円）
こまやかにリアルに作られた、ほんの数センチの世界はさすが日本人。ラーメンの上にのっかったコーンといい、evianならぬevisenと名づけてしまうセンスといい、コレクションしてしまう気持がわかる。（発見ポイント；ホリディショップイイジマ/千住4-24-1、3881-2101、12時〜18時、月休）

千住の絵馬屋の千住絵馬（1000円位〜）とあんどんの絵

（1枚400円〜）
東京中にただ１軒の手作りの絵馬屋の逸品。江戸の頃の絵柄を守り続け、千住みやげには最適。壁飾りにもとてもステキ。（発見ポイント；絵馬屋/千住4-15-8、3881-4505、年中無休の不定休）

銭湯のケロリンの桶とお揃いのケロリンのキーホルダー

（500円）
これはもう「かわいいっ！」としか言いようがありません。（発見ポイント；ジーンズショップマルオカ/千住2-51、3888-0148、10時〜20時、不定休）

省スペースでとっても奇麗な横山家の千住びな（仮称、非売品）

千住4丁目の旧家横山家に残る、半立体、壁掛け型の雛飾り。明治6年製。あんまりステキなので現在再商品化の企画中です。雛の名前、御存知の方、いらっしゃいましたらご一報ください。（発見ポイント；横山さんのおうち）

エピドルージュのホテルブレッド

（２斤460円）
何もつけず、焼かなくてもおいしいと最近話題の食パンは、低温で長時間熟成が秘訣とか。毎日２〜３度焼かれ、その度に焼き上がり時間が店頭に書かれているので安心。（発見ポイント；EPI DE ROUGE/千住3-53、3888-0190、8時半〜20時、日休）

すずめ焼き

（1本120円）
雀というけど実体は小鮒の串ざし。そのわけは5ページを見てね。（発見ポイント；鮒秋/千住2-52、3881-2038、9時〜19時、火休）

昔ながらの天干しひだら

（2000円〜7000円位）
北海道で昔ながらの製法でじっくり作られたで〜っかい鱈の開きの干物。見た目にもインパクト大だが、かめばかむほど味わい深く、昔から根強いおなじみさんを持つ秘かなロングセラーだとか。（発見ポイント；大塚食料品店/千住3-39、3881-4376、9時頃〜20時頃、なるべく無休）

不思議な不思議な下町のお菓子おにぎりおこし

（7個入185円）
おこしなんだからやっぱりあま味。でもおにぎりだから海苔がついてる。しかもほんのりワサビ風味？？？…ともかく試してみる価値あり。（発見ポイント；おかし市場/千住2-54、3879-6651、10時〜20時半、無休）

名前の美しい千住のお茶ゆりがね（100ｇ1000円〜）

千住の山本園のオリジナルで缶詰めされた煎茶「ゆりがね」の意味は、土砂からゆり分けられ、最後に残った砂金の意味。主人の思いが感じられる。（発見ポイント；山本園/千住1-27-1、3888-2336、9時〜20時、日休）

親の代からのぬか床で…自家製きゅうりのぬか漬け

（４本100円、時価）
値段の安さもさることながら、主人の親の代から漬け続けたぬか床産というのにもワクワク…。（発見ポイント；矢萩青果店/千住2-36、3881-4938、10時頃〜20時頃、日休）

ニッポンの美しき知恵ガーゼの湯上げ（1630円）とおぼろ手ぬぐい（810円）

バスタオルの常識をくつがえされる。吸水性がよくて、かさが低く、さらに肌触りが抜群の逸品。絵柄も多様で、知らなかったなあ、こんなスグレモノ。おぼろとは、表がタオル地に似て、裏がガーゼに似た素材で縫い合せられた手の込んだ一品。（発見ポイント；和泉屋商店/千住1-23-13、3881-2810、9時半〜19時半、日休）

安さに拍手！100円の印鑑（各種１本100円）

三文判とはいえ、100円とは安いではありませんか。散歩のついでに一本どう？ かなりマイナーな名前もあるよ。（発見ポイント；100円ショップ北千住店/千住1-22-9、3870-2232、10時〜19時、無休）

千住明治の女伝 〈4〉

山の手と下町と『煙突の見えた場所』

桜木町　大江さとさん　86歳

「女伝なんて言うほど大したもんじゃないけど。特別すごいことした訳じゃないけど、まあ悪いことは只の一度もしていないからねえ」

控えめな中にも一本、りんとしたものを持っている。明治四十四年、亥年生まれ。つぶらな瞳と、かわいらしい口元と、短く刈り込んだ白髪は実年齢よりはかなり若く見える。

十二歳の春、東京市芝区（現港区）の叔母の所へ養女に来た。その年、九月一日、大震災に遭遇する。

「津波が来るっていうんで近くに避難したわよ、張り板ってあるでしょ、あれをもってね。なぜ？波にさらわれてもそれにつかまってれば助かるでしょ。でも後から考えれば間抜けな話よね」

二十二歳で結婚。戦前は三田でご主人と一緒に酒屋を営んでいた。

「結構繁盛してたわよ。慶応の近くだったしょ、千住なんか田舎だと思っていたわよ。主人の兄キが『おばけ煙突』にいてそれを頼って来たけど、あちこちバラックだらけでみすぼらしいし、ちょっと大雨が降るとすぐに水が出ちゃうし、本当になんて所にきちゃったかと思ったわよ。」カラリと明るく言い放つ。

50歳の頃→

昭和初期。古き良き時代…懐かしそうに目を細めて笑う。しかし時代は小さな幸せな酒屋婦人を飲み込んでゆく。

「戦争が始まっちゃったでしょ、店で売るものがほとんど配給制になっちゃって、売りたくても売るものがない。品物が手に入らないんだから、商売あがったりよ」

昭和二十年。空襲で家は焼失。一旦郷里の山形へ戻るがそこで終戦を迎える。数年間の竹の子生活を経て再び東京へ、そして千住へ。

「三田に住んでたでしょ、千住なんか田舎だと思っていたわよ。主人の兄キが『おばけ煙突』にいてそれを頼って来たけど、あちこちバラックだらけでみすぼらしいし、ちょっと大雨が降るとすぐに水が出ちゃうし、本当になんて所にきちゃったかと思ったわよ。」カラリと明るく言い放つ。

昭和初期。古き良き時代…懐かしそうに目を細めて笑う。しかし時代は小さな幸せな酒屋婦人を飲み込んでゆく。

「戦争が始まっちゃったでしょ、店で売るものがほとんど配給制になっちゃって、売りたくても売るものがない。品物が手に入らないんだから、商売あがったりよ」

昭和二十年。空襲で家は焼失。一旦郷里の山形へ戻るがそこで終戦を迎える。数年間の竹の子生活を経て再び東京へ、そして千住へ。

「三田に住んでたでしょ、千住なんか田舎だと思っていたわよ。主人の兄キが『おばけ煙突』にいてそれを頼って来たけど、あちこちバラックだらけでみすぼらしいし、ちょっと大雨が降るとすぐに水が出ちゃうし、本当になんて所にきちゃったかと思ったわよ。」カラリと明るく言い放つ。

「『おばけ煙突』知ってる？本当は四本なんだけど、見る場所によって三本になったり二本に見えたり一本だけだったり、私たち家族はそのすぐ近くで毎日見上げて暮らしてたから、それはそれは大きく高く見えたわよ」

高さ八三・八メートル『煙突の見える場所』の映画にもなったこの巨大な四本煙突は、正式名称、東京電力千住火力発電所。大正十五年に設立され、当時規模、発電量とも日本最大であり、千住の人々だけでなく東京の象徴として庶民に親しまれていた。昭和三十九年、石炭の時代の終焉と共に取り壊された。

「生活は大変だったわよ、子供が六人いたからね、主人の稼ぎだけじゃやっていけないから私も娘時代に習っていた和裁をやってね。貧乏だったけど周りもみんな似た様なもんだったからね、それはそれで結構楽しく生きてこられたわよ。この町も暮らし向きもだんだんと良くなってきて、いつの間にか住めば都になっちゃった。」

戦前と戦後、山の手と下町と『煙突の見えた場所』。八十有余年、時間は流れ、やがて迎えた平成、長年連れ添ったご主人と死別する。

「ずっと一緒に歩いてきたからね、いなくなった途端、私も足を悪くしちゃって」

「私たちの時代はね、生活していくだけで精一杯。これからはね、これからのひとたちが、もっと、もっと良い町にしていってちょうだい」

現在リハビリ入院中である。が、口調は力強く、紅潮した頬は、しっかりと生きてきた証に見えた。

下川又三さんにお話をお聞きしました。

千住昔話 4

千住の川の主たち

下川さんによると今の隅田川は、以前は千住あたりは荒川と呼ばれていましたが、地元の人は大川とも呼んでいたそうです。さらに千住大橋より上流を千住川と呼び、下流を浅草川とも呼んだとか。様々な呼称があったということは、それだけこの川が人々の生活に深く関わっていたということでしょう。この現代の隅田川にまつわる千住昔話を聞いてきましたので、今回は下川さんに少しまとめていただきました。考えてみれば千住には多くの主がいたもんです。

前に話したように、千住大橋の下を亀沼といって、ここにいた主が亀だね。それから巻の野の主はおじいと呼ばれる蛇だったよね。

それから関屋にね、大きなヒゴイがいてね。そのヒゴイを関屋の主って言ってたんだよ。そのヒゴイは船頭に竿で目をつつかれて片目でね。大きな鯉で5mくらいあるっていうんだよ。そいつが来ると川の水が赤くなるんだってさ。まあ水の中では体が倍に見えるからね。

関屋から来て右っ側は今の桜木町で尾竹橋までが巻の野といい、左っ側は南千住、町屋だね。あそこははんの木山って言ったんだ。はんの木っていうのは昔よく畑の周りにあってモミなんかを干すときに使ってたらしいんだけど、大きくなると枝が邪魔でね、切ってマキにしてたんだけど、大木が根っ株の逆みたいになってね、それがいっぱいあったもんだからあそこをはんの木山っていったんだ。で、はんの木山にはイタチの主がいてね。

川の主の総元締めっていうか、世話役ははんの木山のイタチだったみたいだね。それで川の会合をするときに「集まれ」と声をかけるんだね。ところがヒゴイは大橋の杭が狭くて来れないんだとか、橋戸の主の亀はひとっところにいて、俺は動けないんだとか、文句を言ったそうだ。

千住大橋はよく流されたから、人柱を立てたという話があってね。こっちから江戸の方へ向って左側の、南千住側から3本目の橋柱がそれだっていうんだけどね。橋のまん中より少し南千住寄りだね。その3本めと4本めの杭の間が狭くて通りにくくてしょうがないと、ヒゴイの主がぼやいてたっていうんだね。

それから綾瀬川が隅田川に落ちてるところ、あそこを鐘ヶ渕っていうんだよね。昔大きな釣鐘が沈んだっていうんだ。それが口を下にして沈んだから、いくらやっても上がらなかったらしい。今も沈んでるという噂なんだよね。鐘ヶ渕紡績(鐘紡)もその名前を取ったんだね。

お願い！　その1　千住応援会員になって！

町雑誌千住は、千住・町・元気・探険隊が母体となって発行されていますが、現在皆さんのご厚意とメンバーの出資とボランティアによって成り立っています。千住を愛する皆さんにも、ぜひ応援参加していただきたいのです。

●購読応援会員　年間3千円（各号2冊・送料、手数料、カンパ込み）
●親しい方おひとりに1冊さしあげてくださる応援会員

●となり組応援会員　年間6千円（各号4冊・送料、手数料、カンパ込み）
●お隣の方など3人にさしあげてくださる応援会員

●心意気応援会員　年間1万円（各号5冊・送料、手数料、カンパ込み）
●千住のためなら！　などなどどんな理由でも歓迎！

◇心意気応援会員は紙面でお名前をご紹介させていただきます。

●2口以上のご協力、500円からのカンパも大歓迎

会員になっていただける方はお近くの郵便局から下記までご入金ください。入金確認次第、会員登録させていただきます。名前、郵便番号、住所、電話番号のご記入を正確にお願いします。

【振込先】千住竜田郵便局　00140-4-103836（町雑誌千住編集室）

会員になってくださった皆様ありがとうございます

青柿浩一郎	旭町歯科医院	足立都市活性化センター	足立友鼓会	あやめ寿司本店	石黒すみ子
石原　捷恵	上木　恵子	大河内　渉	大野　康子	奥乃丸伸之助	お好焼美和
紙谷　衛	菊　や	日下田知昭	金蔵寺	KUSHIZEN	くつろ木
栗田田鶴子	佐藤　真澄	酒のモトハラ	三忠本店	塩島　莞爾	清水　正雄
千住本氷川神社	田島　利夫	鳥　真	虎谷　恭子	長尾　尚志	長田　英治
日本経済新聞千住専売所	野田　征子	福井　英泰	北條　隆司	堀内　延浩	緑町町会有志
松田季美子	宮田　昭明	宮元睦	お好焼文字屋	よしだや	若林登紀子
渡辺　益男	カンパをしてくださったくださった皆様ありがとうございました				

情報をくださった皆さん、本誌にご登場いただいた皆さん、
ご協力ありがとうございました！　多くの皆さんのお力をお借りしました。

写真・情報提供に、ご協力ありがとうございました！

足立区役所　足立区立郷土博物館　石原録郎　伊藤寿雄ご夫妻　岩淵俊亨　江東区芭蕉記念館
国立公文書館内閣文庫　神野彦二　高松正雄　弓立社（50音順・敬称略）

参考文献／蓮笛のうた（ドメス出版）　足立の今昔（足立区役所）　足立の史話（足立区役所）　足立百の語り伝え（足立区教育委員会）　続足立百の語り伝え66話（足立区教育委員会）　足立風土記（足立区教育委員会）　江戸おもちゃ考（創拓社）　江戸の骨つぎ（毎日新聞社）　旧日光道中千住宿家並変遷図（足立区教育委員会）　隅田川（名著出版）　千住宿（足立区立郷土博物館）　千住宿と足立（足立史談会）　千住の酒合戦と江戸の文人展（足立区立郷土博物館）　千住馬車鉄道（春日部市）　巣兆（柿衛文庫）　特別展江戸四宿（特別展江戸四宿実行委員会）　日光街道千住宿図信誌（名著出版）　日光街道繁昌記（埼玉新聞社）　美人乱舞（弓立社）　復刻東京市十五区・近傍34町村・32南足立郡千住町・北豊島郡南千住町全図（人文社）　仏像のすべて（PHP研究所）　炎の中から生まれた近代（足立区立郷土博物館）　歴史散歩事典（山川出版社）他

お願い！　その2　大募集

●スタッフを募集します！

経費も出ないボランティアスタッフですが、面白そうと思う方、ご連絡ください。特に身軽に動いてもらえる人好きなスタッフを募集しています。▼取材にまわれる方▼写真を撮れる方▼MAC（クオーク）ユーザーでデザインをしていただける方▼宛名書き配送などの出来る方▼配達できる方などなど…

●千住の面白いヒト、もの、こと、募集します！

なんでも、千住の情報を教えてください。お手紙、FAX、お電話などでよろしくお願いします。

お楽しみに
次号（VOL5）の特集は…
千住のお菓子！

募集

引き続き4本煙突の写真、特にエピソードなどを探しています。お持ちの方、お心当たりのある方、ぜひご連絡ください。

町雑誌千住はここで買えます！

●千住曙町／居酒屋地味一●千住旭町／アサヒ書店　旭町歯科医院　梅乃湯　スナックオレンヂ　喜田家ルミネ店　太洋堂書店　弁天湯　松栄鮨　とんかつもりき　弥生　よしだや●千住東町／カド・サン　横田青果店　ヘアーサロンノヒラ　●柳原／松の湯　●千住一丁目／和泉屋本店　焼かつつくし　喫茶蔵　鈴重精肉店　椿屋　日の出屋　前田クリーニング店　山本園　ゆうらいく　養生堂鍼灸整骨院●千住二丁目／おいもやさん　柏屋　くつろ木　紅茶とケーキセピア　千住の永見　ぶっくらんど　ブックスくまくら　洋品ハセ　秋田料理まさき　ジーンズマルオカ　三河屋　お好焼文字屋　リーチャテイ●千住三丁目／一番　珈琲物語　千代の湯　メンズギャラリー福田　ふくとみ　渡辺優文堂●千住四丁目／五門　酒の花栗屋●千住五丁目／梅の湯　●千住大川町／菊や　新橋湯　沼田商店　ホシノ理容室　山口書店　お好み焼美和　ラ・ルミエール●千住寿町／小料理いろは　大黒湯●千住元町／佐原浴泉　タカラ湯　モカ●千住桜木町／渋谷歯科医院●千住柳町／キッチンアントレ　一富士　一柳　金乃湯　ニコニコ湯●千住竜田町／アリス　大戸屋食堂　喜田家本店　大衆割烹つばめ　とけいや　富井煎餅　肉の平川屋　インテリアホシノ工芸●千住中居町／北嶋書店　喫茶コロちゃん　コロラド●千住宮元町／旭湯　居酒屋せきね　高原書店　蔦谷接骨医院　はのは●千住仲町／魚三商店　KUSHIZEN　小桜湯　バラード　まじ満　若竹●千住河原町／不動産のカサマ　千寿泉　梅月湯　牡丹園●千住橋戸町／仁寿堂薬局●千住緑町／魚源　オリーブ　しずか屋　中村屋　パレット　丸安青果店　サロン・ド・ドウル　●千住外／喜田家花畑店　喜田家五反野店　喜田家竹の塚店　喜田家梅島店　富士ブックス　小泉書店　ブックステーション小泉

■この他にもあります。お問い合わせください。■

千住・町・元気・探険隊は現在「足立区まちづくりトラスト」からご支援をいただいて活動しています

編集後記

◆最近テレビで千住の話題を目にすることが多い。「オッ、ココは知ってる。これも食べたぞ」とテレビに向って騒いでいるが、それでもまだまだ知らないところがある。全く奥の深い町じゃ。（穂原）◆古い店などで色々話が聞けてよかった。千住は豆腐やアゲが安くてうまい。変わったものがあって楽しい。（小笠原真実）◆江戸弁ならば弥次喜多なのになぜか上方珍道中。ボケとツッコミで明け暮れた千住お散歩の巻でした。おそまつ。（川上佳子）注：この日の取材陣はなぜか関西出身が3名も揃っていました。◆カメラ屋のショーウィンドゥに並んだリコーオートハーフ、オリンパスTRIP35などなど。あれは売り物だったのだろうか。底知れない奥深さが見つかるかもしれない街であった。（じじい村重）◆面白い発見がいっぱいあって、ほんの100m歩くのに小一時間。猫の目で歩けば千住はもっと楽しくなるよ。（Y・K）◆何度歩いても面白い街です。視点をちょっと変えると色々な表情と時代を見せてくれます。この深さを何とか伝えられたらと思っています。（A）▼千住は本当に懐の深い町。素晴しい人との出会い、あまりにも味わいのある話は筆が追い付かない程で…（大森美恵子）◆夏バテ気味の取材陣を助けてくれたのは、90円の大盛りかき氷でした。町のやさしさに感謝。（F）

さる6月21日に放映されましたテレビ東京の「出没アド街ック天国」はご覧になりましたか？ 町の外にいる人達が見た「千住」は、その呼び名を「北千住」とするところから内部の人間とは違っていて興味深かったですね。やじ馬根性で、アド街ックの選んだ北千住ベスト30をのぞいてみました。

千住発見

外から見た 千住 BEST30

1位 荒川

2位 白亜こども館
店内商品8000点

3位 名倉医院
開業は1716年　敷地面積3000坪

4位　AOTS東京研修センター＆ダイニングホール（食堂）
5位　アメージングスクエア
6位　銭湯
7位　尾崎豊／1965年11月29日練馬区に生まれ1992年4月25日千住で他界 享年26歳 尾崎ハウス(小峰邸)に今も若者が集う
8位　槍かけだんご１本80円
9位　大はし／肉どうふ320円
10位　一号店　上州屋／昭和38年創業、全国277店舗
　　イトーヨーカドー／昭和33年創業全国158店舗

薬丸印の新名物　和歌藤堂の梅どら　１個150円
水戸街道が通る街→偕楽園の梅→川と川にはさまれた街→カワとカワにはさまれた梅→コギャルの間でブレイク寸前→北千住名物梅どら→黄門様も泣いて喜ぶ→梅の甘露煮入り白あんタイプ１個150円→この梅どーらうめーどら！→こりゃまた千住れいしました

11位　足立市場／や満ざきと徳田屋食堂
12位　鮒秋の鮒のすずめ焼　１本120円
13位　アコーディオンおじさん　人生はあきらめないこと
14位　大倉屋のそうざい
15位　三忠／さくら刺900円とさくら鍋1300円
16位　地味一のジミー緑川さん特製薬用酒全200種
17位　吉田屋の塩大福　１個130円
18位　菊やの珈琲牛乳ラーメン700円
19位　勝専寺の閻魔大王
20位　三河屋のイタリア天（ピザ風味）600円
21位　一番の焼きソバチャーハン700円と目玉ドライカレー850円
22位　大橋眼科　観光バスのコースにも入っている
23位　ゑびす屋のゑびす丼1400円
24位　幸楽の特大オムライス（約５人前）時価
25位　永見／北千住駅前の飲み屋横丁で一番人気の飲みどころ
26位　なか井の矢立の初（やたてのはじめ）求肥入り最中　１個 130円
27位　タカラ家の24種類のおにぎり
28位　馬具専門店の北川商会
29位　健慎のしょうゆラーメン500円とスーパーチャーシューメン800円
30位　高松酒店のお菓子自動販売機／北千住の子供達の活力源

町雑誌「千住」　VOL.4　（季刊）　１９９７年 8月30日発行
発行　千住・町・元気・探険隊〒120足立区千住緑町2-33-23 TEL 03-3870-7055
編集　町雑誌千住編集室　〒120足立区千住元町14-18　TEL &FAX 03-5244-2158
編集人　大野順子　舟橋左斗子　（郵便振替口座）00140-4-103836
STAFF 取材・原稿／大江明俊　大森美恵子　小笠原真美　梶謐子　川上佳子　柘和秀
穂原恵子　デザイン協力／飯田みちる　写真／舘又将文　村重秀彰　写真特別協力／荒居康明
石坂満　イラスト／飯田みちる　遠藤杏子　鈴置ミホウ　高橋康子　中田江利　MOMO
MAC協力／村田操　協力／大野清士　鯨井博　坂井美千代　長野高志　能勢千詠子　原島陽子　山崎正樹